

製品名: BRSK1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07668**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	87kDa

抗原情報

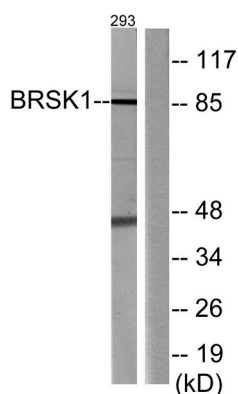
遺伝子名	BRSK1
別名	BRSK1; KIAA1811; SAD1; SADB; Serine/threonine-protein kinase BRSK1; Brain-selective kinase 1; Brain-specific serine/threonine-protein kinase 1; BR serine/threonine-protein kinase 1; Serine/threonine-protein kinase SAD-B; Synapses of Amphids
遺伝子 ID	84446.0
SwissProt ID	Q8TDC3
免疫原	抗血清はヒト BRSK1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 361-410

背景

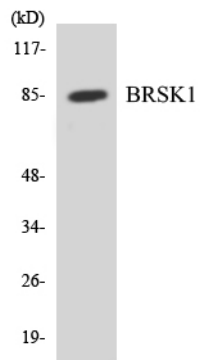
触媒活性:ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。補因子:マグネシウム。酵素調節:STE20 関連アダプターアルファ (STRAD アルファ) 擬似キナーゼおよび CAB39 との複合体における STK11 による Thr-205 のリン酸化によって活性化されます。機能:前脳ニューロンの分極に必要であり、軸索と樹状突起に異なる特性を付与します。これはおそらく、微小管関連タンパク質のリン酸化を局所的に制御することによります (類似性による)。UV またはメチルメタンスルホン酸 (MMS) 誘発性の DNA 損傷に対する G2/M 停止の調節に関与している可能性があります。IR 誘発性の DNA 損傷には関与していません。in vitro で WEE1 および CDC25B をリン酸化、in vitro および in vivo で CDC25C をリン酸化します。類似性:タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。CAMK Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。AMPK サブファミリー。類似性:1 つのタンパク質キナーゼドメインを含む。類似性:1 つの UBA ドメインを含む。細胞内局在: DNA 損傷がない場合には核内。UV または MMS 誘発性の DNA 損傷にตอบสนองして核へ移行。組織特異性: 広く発現しており、脳と精巣で最も高く発現しています。タンパク質レベルは細胞周期を通して一定に保たれます。触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。補因子: マグネシウム。酵素調節: STE20 関連アダプター アルファ (STRAD アルファ) 擬似キナーゼおよび CAB39 と複合した STK11 による Thr-205 のリン酸化によって活性化されます。機能: 前脳ニューロンの分極に必要であり、軸索と樹状突起に異なる特性を付与します。これはおそらく、微小管関連タンパク質のリン酸化を局所的に制御することによります (類似性による)。UV またはメチルメタンスルホン酸 (MMS) 誘発性 DNA 損傷に対する G2/M 期停止の制御に関与している可能性があるが、IR 誘発性 DNA 損傷には関与していない。in vitro で WEE1 および CDC25B を、in vitro および in vivo で CDC25C をリン酸化。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。CAMK Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。AMPK サブファミリー。類似性: 1 つのタンパク質キナーゼドメインを含む。類似性: 1 つの UBA ドメインを含む。細胞内局在: DNA 損傷がない場合、核内。UV または MMS 誘発性 DNA 損傷にตอบสนองして核へ移行する。組織特異性: 広く発現しており、脳と精巣で最も多く発現する。タンパク質レベルは細胞周期を通じて一定に保たれる。、

研究分野

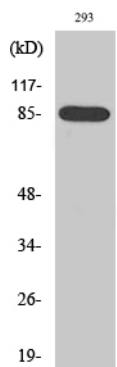
画像データ



BRSK1 抗体を用いた 293 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



BRSK1 抗体を使用した COLO205 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



BRSK1 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析